

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172300154		
法人名	有限会社 老古美興産		
事業所名	グループホーム「そよかぜ」岩内		
所在地	岩内郡岩内町字栄2-10		
自己評価作成日	平成22年9月8日	評価結果市町村受理日	平成22年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・本人の考えで過ごせるように支援している。 ・自由 ・食事への工夫 ・ケアプランは月に1回全スタッフで見直し、本人のニーズに合ったプランを作っている。 ・利用者、家族、ホームスタッフが一体となり、地域のお祭りに出店できた。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172300154&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム「そよかぜ」岩内は町の中心街に位置しており、都市間高速バスのターミナルから徒歩5分と交通の便が良い。店舗を改装した建物の1階は主に事務室・会議室で、2階部分が居室や居間などの生活空間になっている。共用空間は広々として明るく、居間の大きな窓からは車の流れや商店街を見下ろすことができるので、利用者は毎日四季の移り変わりを楽しんでいる。居間の食堂には4個の丸いテーブルが置かれ、3~4人ずつに分かれて座るようになっており落ち着いた雰囲気でも過ごすことができる。階段の昇降機の設置や隣り合わせて大小2つの浴室など設備が整っている。職員が皆明るく、お互いのコミュニケーションも良いことから定着率が高い。食事は、毎週、利用者の意見を聞きながら献立を作り、買い物や調理、配膳、後片付けなども職員と一緒に楽しみながら行っている。家族の訪問回数も多く、家族会での意見も活発に行われるなど協力体制が整っている。地域との付き合いも盛んで町内会の季節ごとの行事に参加し、買い物もなるべく大型スーパーを使わず近所の商店街を利用している。商店街の「ギンザ通り手作り市」には利用者の作品を提供し、普段も良く声をかけてもらっている。町内の友人も頻りに利用者を訪ねてくれる。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく過ごせることを主に置き、ケアプランに反映させている。	「住み慣れた町、住み慣れた地域」で「その人らしく過ごして頂きたい」との開設時から一貫した理念を職員全員が共有し、常に心に置きながら日々のケアにあたっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	商店街での買い物、散歩、地域のお祭りに参加して交流出来ている。	町内会の祭りなど季節の行事に参加し、買い物は近所の商店街を利用している。商店街の「ギンザ通り手作り市」に利用者の作品を提供し、普段も良く声をかけてもらっている。今年のクリスマスは地域の小学生を招待する計画がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の「介護の集い」に参加し、施設内での支援方法等を地域の人に話す機会を設けている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方からの助言で玄関スロープの設置、外出行動センサーの設置、災害、火災体制を組んで頂いた。	運営推進会議は2ヶ月に1度、役場職員、町議、地域包括支援センター職員、地域代表、家族代表等に参加していただき、事業所・行事報告、地域交流、火災時の避難訓練、外部評価などを議題に、活発に意見交換をしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場、保険福祉課課長が参加してくれ、災害弱者登録へのアドバイス、行方不明者の捜索協力、防災無線での協力なども教えて頂く。	今年10月まで在籍していた施設長が町役場に長年勤務していたことから、町との情報交換や協力関係は良好である。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯目的以外施錠はしていない。寝たきりの利用者の方にもなるべく柵は使用せずケアしている。	日中、玄関は施錠していない。建物の2階部分が利用者の生活空間で、1階に下りる階段部分には鈴の付いた玉のれんによって出入りが分かるようになっているが、新たにセンサーも設置してより安全性を高めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加して内部研修に繋げている。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで事例がなかったため勉強会は設けていなかったが、これからは必要と思われるので勉強会を計画する。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営推進会議に役場、保険福祉課課長が参加してくれ、災害弱者登録へのアドバイス、行方不明者の捜索協力、防災無線での協力なども教えて頂く。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会、家族面会時に要望を聞いている。利用者家族より、「家族とスタッフの交流の場を持ちたい」と希望があり現在検討中である。	運営推進会議で家族代表の意見を聞くほかに、年2回の家族会で家族と職員がじっくり話し合いをしている。また、毎月の利用料を口座払いではなくあえて現金払いでお願いし、家族に毎月必ず来てもらうよう工夫している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は施設長、管理者が代表者に伝えている。要望として外出行動センサーは設置され、火災予防のためガスコンロからIHクッキングヒーターへ交換する方向で検討中である。	毎月の職員会議で職員の意見を聞いているほか、管理者が時間のある時に職員に話しかけ意見を聞いている。勤務体制についても職員の意見を反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者の優遇を会社側に伝えたが実施には至っていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内が来たときには出来る限り参加して、内部研修に役立てている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣のGHとのスタッフ交換研修を企画、実行してサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族から本人の状況や要望を聞く機会を必ず設けている。事前に訪問や面談も行なっている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ある家族から「守りのケアはせず、攻めのケアをしてほしい。」と要望があり、本人の得意な包丁での食材キザミなども行なってもらっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅へ帰りたいたう利用者には帰れる機会を多く設け、対応した。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しながら、台所作業、洗濯物たため、掃除などの家事を一緒に行っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とスタッフが相談しながら本人の馴染みの物を多く持ってきてもらうなど、本人の過ごしやすい環境を作っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に会いに行く支援や自宅へ帰る支援も行なっている。	町内にいる友人が頻繁に訪問してくれる。また、職員が利用者の希望を聞き、自宅や馴染みの喫茶店、美容院、美術館やお墓参りなどに車で同行している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご飯、おやつの時間は出来るだけホールで過ごしてもらい、会話中も孤立する利用者がいないようスタッフはみんなに話しかけるように配慮している。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族と町内で会った時には本人の様子を伺ったり、挨拶を交わしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	布団からベットへの変更希望があればすぐに対応した。「今は何もしたくない」と言われる利用者には無理せず過ぎて頂いている。	センター方式のアセスメントシートを参考に思いや意向を把握しているが、普段と異なった言動や理解しづらい行動については、家族に相談しながら本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に入所前に書式を渡して必須事項等を記入して頂き入所後も新たに聞いた情報などがあれば随時記録に追加している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録にかかる時間が多くなっても詳細に記録するよう努めている。何が出来たかは記録に残すようにしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入浴が困難になった利用者の場合には清拭で対応し、清潔を保つための計画を作成してすぐに行なった。	職員全員の意見を聞きながら、1人の利用者に対して2人の担当職員と計画作成担当者が相談しながら介護計画を作成し、家族に説明して署名捺印を得ている。モニタリングは毎月行い、見直しは3ヶ月ごとに行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、連絡ノートを使って情報を共有して、ケア会議でもアイデアを出し合い計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2時間入浴したいと希望がある方にも、本人が心ゆくまで入浴できるよう支援している。一時帰宅された方には配食サービスを紹介し利用して頂いた。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手作り市への参加で利用者が物作り、販売、呼び込み等を行い、地域の中で力を発揮できる場を作り、利用者が充分力を発揮できた。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から利用していた病院を優先して受診継続支援を行なっている。町内の受診に関しては必ずスタッフが同行している。	ほぼ半数の利用者が従来からのかかりつけ医を受診している。かかりつけ医は殆ど往診してくれているが、協力医療機関は通院なので職員が同行している。医療情報は業務日誌や介護記録に記載しているが、医療の経過を確認するのに時間がかかる。	医療専用の受診ノートやファイルを作成するなどの工夫で、医療情報をすぐ確認できるような取り組みを期待したい。

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	便秘、精神状態の変化を伝え、必要時には受診するなど対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	町内の病院への入院であれば毎日面会に行き、その都度看護師さんと情報交換をしていた。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化時には主治医、家族、ホーム職員とで終末期についての治療について話し合いを行い、そのことについては運営推進会議でも今後のケア方法についての報告を行なっている。	看取りを行った実績はあるが、事業所としての重度化や終末期に向けての方針や体制はまだ確立されていない。	重度化や終末期に向けての方針を文書化し、書面で確認できる取り組みを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防の普通救命講習を受講している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の他にも、利用者の避難誘導訓練も行なっている。避難訓練には地域の方にも参加して頂いた。	消防署の協力で、毎年、昼間・夜間想定各1回の避難訓練が行われている。また、訓練時には地域代表者と同建物内の薬局をお願いして参加してもらっている。救急救命訓練は2年ごとに定期的に行い、災害に備えた備品などは準備中である。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人に合わせた声掛けを行なうようにしている。	利用者のプライドを傷付けないような声かけに配慮し、気付いたことがあれば注意し合っている。個人記録は詰所や事務所に安全に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2つを並べて本人が選択できるようにしている。例えば、朝食に納豆が食べたいか、それとも味海苔が食べたいか、その場で本人が選択、決定をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の思い通りに過ごしたい方には決め事は作らずに、強制するようなことも一切せずに自由に過ごして頂いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に髪の毛を気にされる方にはこまめに美容院へ同行して、自己決定が難しい利用者にはその方が好むような服やおしゃれをスタッフが把握して介助している。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備から片付けまで利用者とスタッフが行き、食事も利用者、スタッフが同じ物を同じ場所で食べている。食事の献立を掲示していることを楽しみにしている方もいる。	毎週、利用者の意見を聞きながら献立を作り、買い物段階から利用者に手伝ってもらい、可能な方には調理や配膳、後片付けも手伝ってもらっている。職員が利用者に話しかけながら一緒に同じ食事を摂っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂りたがらない方には個人の好みに配慮して、ゼリー、かき氷、ジュースなどを利用している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	忘れてしまう方には毎食後声掛けをしている。その他の方には本人の習慣に応じてケアして頂いている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調の悪化時にはオムツ、ポータブルトイレの使用を促し、使用することもあるが体調が回復後には習慣を取り戻せるよう時間をみてのトイレ誘導などに力を注いでいる。	排泄チェック表を作り、利用者の排泄パターンを把握している。排泄・トイレには必要最低限度以上の関わりを嫌がる利用者もいるため、自主性を尊重しながら必要な声かけや誘導をさり気なく行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用だけではなく、おやつに寒天ゼリーやバナナなどを使用したり、腹部マッサージも行なっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝を希望される方には午前入浴をして頂き、2時間入浴希望される方には入ってもらうように支援している。	週3回程程度入浴日を設定し、各利用者が週2回以上を目処に入浴している。それ以外の日も希望があれば入浴でき、入浴時間や入浴の長さも希望に合わせている。浴室が隣り合わせで大小2つあり、同時に入浴することも可能である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方にはして頂き、一人の時間を大切にすることは時々見守り支援を行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋ファイルを作り、いつでも確認できるようになっている。薬の変更がある場合には申し送りによって確実に全スタッフが情報を共有出来ている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	温泉で賄いの仕事をしていただ方には台所作業を役割として行ってもらい、張り合いの為にテーブル拭き、食前の準備をされている方もいる。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物には出掛けるが荷物は商店街のお店に配達してもらっている方もいる。突然、外出してしまう方には必ずスタッフが付き添うように努めている。	事業所が商店街に面しており、日ごろから商店街に買い物や散歩に出かけている。近所の公園や道の駅、海岸などにも散歩に行っている。通院した後にドライブしたり、月1回程度、大型ショッピングセンターなどに買い物に出かけている。花見やもみじ狩り、回転寿司への外食などの行事も企画して行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金への執着が強い方には家族と相談して現金を持って頂いている。支払いが可能な方には、自分で支払いを行なって頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話の操作が出来ない方はスタッフが変わりに行ない、電話の取次ぎの支援を行なっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年の夏は特別に暑かったので室温には充分気をつけていた。	2階の共用空間から商店街が見下るせ、店や通行者を眺めることができる。食堂には4個ほどの丸いテーブルが置かれ、3~4人ずつに分かれて座ることができるので落ち着いた雰囲気でも過ごすことができる。ソファなどのくつろぐ場所も随所に配置され、壁には行事の写真や利用者の塗り絵、風景画などが飾られ居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人を好まれる方には1人で過ごすことができるような場所を作っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室の家具類、備品は入居時に使い慣れた物を持ち込んで頂いている。	居室には利用者が自由に馴染みの生活用品、仏壇、たんすなどを持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも自由にカレンダーや写真など飾り付けをすることができている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	針仕事を好む方には裁縫道具を持参してもらい、包丁を使用する方には見守りやスタッフが一緒に行なう等の支援を行なっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム「そよかぜ」岩内

作成日：平成 22年 12月 6日

市町村届出日：平成 22年 12月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	現在は介護記録に病院受診結果、検査結果等を記録している。今までは特に不便はなかったが数ヶ月前の記録を確認する場合には大変である。	介護記録と医療関係記録を別々にファイルを用意して、それぞれ内容が確認しやすいようにする。	医療関係ファイルを作成する。。その後、記録方法を職員全体へ周知する。	1ヶ月
2	33	看取りは行なってきたが、重度化や終末期への方針、体制、契約が詳しく文章化されていなかった。	現在ある文面はそのまま活用するが、より重度化や終末期ケア、看取りについて事業所の方針を新たに文章化して本人、ご家族、事業所間で内容を共有できる体制を作る。	他の施設、事業所の文面を参考にして新たにそよかぜ独自の方針を文章化する。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。